

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経済学部
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況 (院)

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

	2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
			2009	2010	2011	2012	2013
	1. 学部外国人留学生海外推薦入学制度を改善する（全学で検討されている韓国の高校との推薦入学制度導入の具体的検討、多様な国籍の留学生受け入れを促進する推薦対象高校の拡大の検討）。	→留学生の受け入れ対象国数（現状の3カ国を、5カ国・地域以上に拡大）。	D	D			
	2. 留学生と日本人学生の交流を促進する留学生懇談会などを充実させる。	→外国人留学生と日本人学生の懇談会・懇親会の開催回数（年間2回開催）。	A	A			
	3. 海外ゼミとのゼミ間交流を促進させるための制度を創設する。	→海外の大学と交流ゼミ数（毎年1ゼミ以上の交流の実現）。	A	A			
	4. 経済学部生の交換留学・認定留学等の拡大を図るため、外国語の授業改革とともに、専門教育における外国語授業の拡大や、留学生者に対するカリキュラムの弾力化、留学に関する積極的な情報提供などを行うものとする。	→TOEIC600点以上の学生数（600点以上を獲得する2年生を30人以上）。	B	B			

☆

	2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
		→					
		→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★ 小項目 7.0.1	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
	(方針明示の有無) いすれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ → <input type="radio"/> 明示している <input checked="" type="radio"/> 明示していない (方針) (説明) 国際交流の姿勢についてははっきりと明示はしていないが、海外を視野に入れた人材育成のために言語教育の大切さを学部の方針とし、IEFL(英語常勤)講師による授業や、二言語の習得を義務づけている。
★ 小項目 7.0.2	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。 (説明) 外国人留学生試験で入学した1年生との懇談会を1回開催、全留学生を対象とした懇談会(留学生との交流ランチタイム)を1回、計2回開催した。さらに、大学院生TAによる授業相談の時間には留学生TAも2名担当し、学部留学生の相談窓口となった。また、学部学生のTOEIC-I Pの平均点は2年生で419.06点(前年度415.64点)であった。600点以上の獲得者数は37名(前年度25名)であり、昨年よりアップしている。
★ その他	

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【経済学部】			単位	2006	2007	2008	2009	2010	2011	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	2	2	2	2	2	2	・5/1現在	
指標2	国際交流協定締結国数		国	2	2	2	2	2	2	・5/1現在	
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—		
		外国人留学生	正規	人	81	82	73	73	69	59	・5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的
			交換	人	5	3	6	8	9		・累計数 ・交換は正規以外とする。
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	2.8	2.8	2.5	2.5	2.4	2.1	・外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.2	0.1	0.2	0.3	0.3		
その他(セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—				
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	・累計数	
		人数	長期	人	8	14	15	9	11		・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	23	33	40	19	17		・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0.3	0.5	0.5	0.3	0.4		・海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
短期	%		0.8	1.1	1.4	0.6	0.6				
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	0	2	0	0	0		・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	7	2	3	1	1		・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	1	1	1	3	4		・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	13	7	6	43	48		・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	—	—	0	0		・累計数 ・春・秋の合計	
指標8	外国人教員比率		%				9.3	14.0			

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)

(その他の指標)
 協定校と相互交流数(学生・教員)
 国別国際交流協定締結先機関数
 国別留学生数(学部別)の経年変化

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	留学生と日本人学生の交流を促進する留学生懇談会および学部独自のパートナー制度を導入し、新入留学生に対し、2年生をパートナーとする試みを開始することとなった。
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸ばさせるための方策

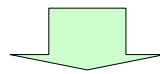
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	2年生パートナーの支援などの検討を行い、制度を継続させる。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 7.0.1	国際交流についての方針の明示を検討すること。
★小項目 7.0.2	全学的に検討している韓国との推薦入学制度を具体的に検討すること。
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 7.0.1	未検討であるため検討を開始する。
★小項目 7.0.2	入試部・CIEC等との連携により、外国人留学生海外推薦入学者の多様化に向け、推薦対象高校の拡大を図る。(2009年度より継続)
その他	

◎自由記述

《点検・評価》《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○留学生との懇談会の開催やTOEICの平均点の向上は具体的で優れています。学部の留学生推薦制度が進まない問題は、その理由や問題点を分析検討されることが望まれます。

【学内委員】

○さまざまな国際交流の拡充策がとられていますが、学部としての国際交流の方針が明示されていません。明示が急がれます。
 ○2010年度も同様でしたが、上記小項目7.0.1の「国際交流(国内外における教育研究交流)についての方針を明示しているか。」について、(方針)の記述がありませんので、それを明示することが期待されます。留学生懇談会や学部独自のパートナー制度は高く評価されますが、海外の大学とのゼミ間交流についても、具体的な数字や実績を示されることが期待されます。他方、2010年度・2011年度とD評価である外国人留学生海外推薦入学制度については、全学でも検討中の韓国の高校を念頭に置き、具体化されることが期待されます。
 ○目標を設定され国際交流について検討されています。特に、日本人学生と留学生との交流促進につき努力されています。
 ○目標3の進捗評価が「A」ですので、記述が望まれます。
 ○海外への派遣学生が減っていることが気になります。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★(目標3に対する追記事項) 海外大学とのゼミ交流については昨年度と同様、1ゼミ以上のゼミ交流を行っており、次年度へ向けては、いくつかのゼミで海外での活動に繋がる動きがあり進捗が期待できる。伸ばさせるための方策は、これらの活動について報告会の開催やホームページなどで報告の掲載。